

令和6年度農福連携意見交換会開催結果

長野県セルフセンター協議会

1 開催概要

① 日時・場所

令和7年2月7日（金）13:00～16:00

穂高交流学習センターみらい 多目的ホール他（安曇野市穂高 6765-2）

② シンポジウム参加者

一般参加	事例発表	事務局・県	合計
41名 (申込:44名)	5名	12名	58名

*R5 一般参加者 29名（申込33名）

2 参加者アンケート結果（回収数 35名）

① 所属区分

福祉関係事業所	農業者	行政機関	その他
15	7	12	1

② 地区

東信	南信	中信	北信
10	8	6	11

③ 農福連携の取組状況

すでに取り組んでいる	近いうちに取り組む予定	取り組む方向で検討中	取り組むつもりはない	その他
20	1	4	—	6

*その他の内容

- ・スポット的に取り組んでいる
- ・取り組むべきか検討中
- ・農福連携について勉強中。後継者やパートさんの意見も聞いて、できれば取り組みたい
- ・知識として農福連携を知りたい

④ 開催時期・場所について

区分	1	2	3	4	5
時期	—	1	10	10	14
場所	—	1	15	7	12

⑤ 内容について

区分	1	2	3	4	5
事例発表1	—	—	3	16	16
事例発表2	—	—	4	16	15
グループワーク	—	—	5	7	17

良くない ← 1 2 3 4 5 → 良い

※その他意見等

- ・お互いに助け合うために工賃は高くしていく必要性を農業サイドに理解していただけるとありがたい。
〈福祉・中信〉
- ・事例発表がとても良かった。福祉事業者、農業者双方にとってよいことをすり合わせ、担い手不足と“出番のある社会づくり”が進むことを期待している。〈行政・北信〉
- ・どんどんパイプを作っていただきたい。そこが入口になって行くと思うので。〈福祉・東信〉
- ・農福連携についての具体的事例の中で事業者と農業者それぞれ必要な事項を知ることができてよかった。
〈行政・東信〉
- ・農業が厳しくなってきたこと、福祉もなかなか困難になってきていること。だからこそ障がいを持つ仲間たちにとってより良い働き場ができる願いを実現できるようひとつひとつクリアしていきたいと

思った。みんなで行政も動かして進めましょう。〈農業者・東信〉

- A型事業所としては、どのようにして最低賃金以上を稼げるようになるかが大事だと思った。特に難しい仕事をできるような能力開発ができればと思う。〈福祉・南信〉
- 農業者にもっと農福連携を広めてほしい。JA青年部の会合等に県から説明に行ってはどうか。
〈農業者・北信〉
- コーディネーターの育成を望む。〈福祉・南信〉

※グループワークで話し合われた主な内容

- 時給、受入態勢、インフラ整備が課題。
- 工賃は最低賃金で強気で交渉。徐々に仕事の量・質を上げて評価してもらうことが大事。移動に係る経費も考えてほしい。
- 夏の暑さ対策やトイレ等について行政の指針があればいい
- 冬季間の仕事がない（特に北信地方）
- 農福連携は地域全体で盛り上げていくことが大事ではないか
- 農業者によって障がいの理解の差がある。また、工賃の差もあり基準があればよい。
- 本格的に始める前年度に、お試して行い準備しておくといいのではないか
- 福祉と農業をつなぐコーディネーターの存在がポイントとなるのではないか。双方が意見交換などを通じて考え方を共有することが大事
- 作業料金の設定方法は、歩合から時給にしていくことが望ましい
- 持続可能な働き方として、利用者が楽しくできるかがカギ。実際には利用者とのミスマッチがある。

※質疑応答

質問＝障がい者に働いてもらって良かった点はどのようなことか

回答

- 障がい者は真面目に毎日コツコツと作業ができるので、畑がどんどんきれいになって行く。農業者は知識や技術が必要な仕事に時間をかけられるようになった。
- 農福連携は投資。毎日来てくれる人がいるということがよかったことのひとつ
- ブドウの栽培農家。年間、週2回10か月作業を依頼。単純作業だが量をこなしてもらえるので、販売などの自分の仕事に集中できる。また、農福連携の生産物ということで、都会（の裕福な人）への販売の際には付加価値となる。その他、自分がけがをした時にはとても助かった。